

横山隧道

ばていけい れんがづくり

【構造・材質】馬蹄形断面、煉瓦造
【設計・施工】設計：村田鶴
【竣工年月日】大正12年(1923)春
(記念碑)



石碑(長浜市側)



横山隧道(長浜市鳥羽上町～米原市菅江)

大正時代の煉瓦造道路トンネル
横山隧道



- ・横山隧道は後に建設される観音坂隧道と同様、長浜市と米原市(旧山東町)を南北に隔てる丘陵の鞍部を切り抜く道路隧道である。
- ・延長540尺(約163.6m)幅員15尺(約4.5m)高さ14尺(4.2m)。坑門イギリス積み煉瓦、側壁長手積み煉瓦、アーチ部長手積み煉瓦、アーチ環・要石・笠石は石材。馬蹄形断面。冠木門型煉瓦坑門も美しい。
- ・長浜市側の道路脇に巨大な横山隧道碑がある。碑文は『ふるさと長浜』に全文が載せられている。摘要すると、旧坂田郡西黒田村と東黒田村の有志が明治18年に県に訴えたのがその初めで、大正5年(1916)県会で建設を決議、大正8年(1919)冬起工して大正12年(1923)春竣工している。工費は11万7千余円で、内2万1千円は東西黒田二村の寄附によっている。
- ・設計者は『滋賀県土木百年年表』によれば村田鶴とのことである。
- ・現在は新横山トンネルができたため利用者は少ないが長大煉瓦造隧道で、保存状態も良く、煉瓦造隧道を代表する貴重な事例である。

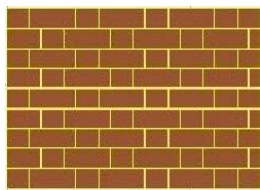


石碑(米原市側)

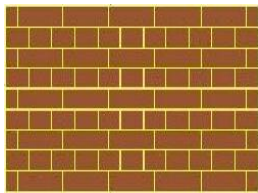
かぶき
冠木 = 門柱の上部の横木

1尺 = 0.303m

煉瓦(れんが)の積み方



フランス積み



イギリス積み



隧道内の煉瓦状況



新旧横山トンネル(米原側)

- ・煉瓦の積み方に、イギリス積み、フランス積みなどがあります。
- ・煉瓦は一段毎にモルタルで水平に積み上げて行きますので横目地は水平に1本につながります。(芋目地)。
- ・縦目地は破断を防ぐため各段が繋がらない破れ目地と言う積み方をします。
- ・イギリス積みは煉瓦の長手面との列と小口面の列が交互に出てきます。切り物が少なく経済的で堅固であり一般的に用いられる積み方です。
- ・フランス積みは同じ段に長手面と小口面が交互に出てきます。華麗で優雅な印象を与えます。

【位置図】



観音坂隧道

ばていけい

【構造・材質】馬蹄形断面、コンクリートブロック造
【設計・施工】設計：村田鶴
【竣工年月日】昭和8年(1933)3月(題額)



坑門(長浜市側)



観音坂隧道(米原市側)：(長浜市石田町～米原市朝日)

鉄筋コンクリート造道路トンネル
観音坂隧道

湖北の近代土木遺産
その



石碑(長浜市側)

- ・観音坂隧道は横山隧道の北に隣接し、建設は横山隧道に遅れをとるが、構想は早く、明治9年(1876)9月に京都府下増田武雄外1名により、旧坂田郡石田村と春照村の有料道路の一環として計画されている。
- ・延長320.6m幅員5.7m有効高3.9m。構造はコンクリートブロック巻き立て、坑門は下見板張り風のデザインとなっている。
- ・題額は長浜側「観音坂隧道 昭和八年三月竣工」、米原市側「造化無権武彦書」。
- ・長浜側坑門の道路脇に横山隧道と同様の巨大な観音坂隧道碑がある。
- ・碑文は『ふるさと長浜』に全文が載せられている。摘要すると、坂田郡北郷里村、大原村の村民が大正9年(1920)以降に県に訴え、県の認めるところとなり、昭和7年(1932)起工。
- ・延長1,056尺、幅員20尺、高さ18尺工費18万余円。6万3千円は関係地方有志醸出となっている。
- ・坑門は創建時のままとされるが、隧道内部大部分がモルタル吹き付け側壁プラスチックパネル張りとなっており、創設時と相当異なる印象となっている。



米原市側題額



現在のトンネル内部

【位置図】



谷坂隧道

ばていけい

【構造・材質】馬蹄形断面、コンクリートブロック造
【設計・施工】設計：村田鶴
【竣工年月日】昭和10年(1935)12月
(題額)



坑門(郷野側)



谷坂隧道(小室側)：(長浜市小室町～郷野町)

鉄筋コンクリート造道路トンネル
谷坂隧道

湖北の近代土木遺産
その



石碑(小室町側)

- ・ 谷坂隧道は姉川の支流、草野川に沿う村落から虎姫方面への短絡路となる、南北の丘陵鞍部を越える郷野湖北線に位置している。
- ・ 山本博氏によれば、急峻な峠越えの解消を期して、田根・上草野両村を始め関係地方有志による谷坂隧道期成同盟が大正14年(1925)末に結成され、運動の結果、ようやく昭和8年(1933)に県継続事業として着工、昭和10年(1935)3月1日貫通、同10月末竣工完成している。
- ・ 題額には「谷坂隧道 昭和拾年拾貳月竣工 村地書」とある。
- ・ 延長300.0m、高さ3.0m、幅員4.8m。坑門はコンクリート、馬蹄形断面、アーチ環は石材、円柱のピラスターは新古典風、坑門壁面は下見板張り風となっており洗練された意匠となっている。
- ・ 昭和15年(1940)11月3日建造の谷坂隧道碑が坑門手前の道路脇にある
- ・ 工費15万6千有余円、内2万3千円関係は両村醸出(田根・上草野)。
- ・ 谷坂隧道は観音坂隧道に次ぐ長大コンクリート造隧道である。隧道内壁がモルタル吹き付け補修され、型枠目地が目立つものの、坑門の意匠は洗練されたもので一連の村田鶴による設計のなかでも際だっている。



郷野側題額

【位置図】



現在のトンネル内部